

第 89 話 (68 頁) おかみさんとニワトリ

あるニワトリが、毎日、たまごをひとつずつうんでいました。えさをよけいやったら、たまごを倍うみはしないだろうか、おかみさんが考えました。そうしてみました。すると、ニワトリはまるまると太ってしまい、たまごをすっかりうまなくなっていました。

「欲張りを戒める話として、3 話前の『メンドリと金のたまご』と同じメッセージだ。しかも、こっちもイソップ物語が基になっていて、ストーリーもほぼ共通している。」

「浅はかというか、浴深いというか…。ことわざの『捕らぬ狸の皮算用』にも当てはまる。」

「あげるえさを増やしたら、卵ももっとたくさん産むんじゃないか。とっさにそう思うのも、わかる気がするけど、よーく考えたら、気づきそうなものなのに…」

「そこが欲張りたる所以、というわけさ。」

「そこはかたなく現実感が漂っている。『メンドリと金のたまご』とはそこが違う点だ。」

「それだけに、一段と身につまされるね。」

「多くの方は食欲さから余計なものまで欲しがって、現にあるものまで失ってしまう、ということをこの話は説き明かしている。そう、『イソップ寓話集』(中務哲郎訳、岩波文庫)の『女と雌鶏』(58 話)は締めくくっている。」